



生涯学び続ける自律的な アクティブ・ラーナーの育成をめざして

県大の教育改革， 高大連携でさらに加速！



県立広島大学AP事業推進部会長 馬本 勉

平成26年度に文部科学省補助事業「大学教育再生加速プログラム(AP)」に選定されて以来、学内・学外での能動的な学びが広がりを見せ、アクティブ・ラーナーの育成が加速しています。また、この事業が平成28年度から「高大接続改革推進事業」と位置付けられたことを受け、広島県内の高校で進んでいる「学びの変革」と円滑に接続するため、様々なイベントによる協働を模索しています。「高等学校との相互理解を深め、より良い県大の教育を実現する」—私たちの踏み出した一歩を、今回のニュースでご覧ください。

TOPIC 平成28年度 教育改革フォーラムを開催しました。

平成29年3月3日(金)、広島キャンパス大講義室を会場として、「平成28年度県立広島大学教育改革フォーラム(兼 教育ネットワーク中国第4回研修会・高大連携研究交流会)」を開催しました。3回目となる本フォーラムは「アクティブ・ラーニングと高大接続」をテーマとし、高校と大学のアクティブ・ラーニング実践事例を踏まえ、高大接続のあり方について考えました。



はじめに、学校法人鶴学園初等中等教育研究センター長の立上良典氏(前広島県立西条農業高等学校長)から、「高等学校におけるアクティブ・ラーニングと高大接続改革」と題



鶴学園初等中等教育研究センター長
／前広島県立西条農業高等学校長
立上 良典 氏

して講演をいただきました。高大接続改革の状況や、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校である西条農業高等学校の教育実践ならびに学習評価に関する取組事例など、多くの示唆に富むお話をいただきました。

続いて、「アクティブ・ラーニングを通じた人材育成の課題」として、本学のファカルティ・ディベロッパーによる実践紹介を行いました。1例目は、総合教育センター副センター長の丸山浩明教授から、3つのポリシーの見直しと関連付けたルーブリック導入の試みを紹介しました。2例目は、学科における取組事例として、生命環境学部環境科学科の三苦好治教授から、ルーブリック教育

がアクティブ・ラーナーの育成に与える効果について、報告を行いました。



総合教育センター副センター長
丸山 浩明 教授



生命環境学部環境科学科 / FDer
三苦 好治 教授

最後の全体討議「主体的な学びのリレーに向けて」では、講演及び実践紹介者の4名に、本学AP評価委員の北九州市立大学 見館好隆准教授を加え、フロアを交えたディスカッションを行いました。他大学や高校関係者から多数の質問が寄せられるなど、活発な議論が展開されました。その後、本学AP評価委員長の島根大学大学院 肥後功一教授から講評をいただき、討議を締めくくりました。

今回のフォーラムは、高等学校におけるアクティブ・ラーニング実践の現状を知り、生涯学び続けるアクティブ・ラーナーの育成に向けた高大接続・大学教育のあり方を考える上で非常に有意義な時間となりました。



ファカルティ・ディベロッパー (FDer) 養成講座を実施しました。

本事業では、各学部・学科及び総合教育センターにおいて、学生の主体的学びを促すアクティブ・ラーニングの導入を牽引するファカルティ・ディベロッパー (FDer) を養成することとしています。28年度は、前年度の内容をさらに発展させるテーマで年5回の養成講座を実施しました。

第1回養成講座は、事前に参加希望があった教員を対象としてティーチング・ポートフォリオ[※]作成ワークショップを開催しました。また、第2～4回養成講座は、各キャンパスFDerが独自に企画したテーマにより、それぞれのキャンパスを主会場として開催しました。

※教員が自らの教育活動について振り返り、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録。(出典：大学評価・学位授与機構「日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題」2009年3月)

第1回 FDer 養成講座 ～ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ～

日時：平成28年8月24日(水)～26日(金)
場所：広島キャンパス2317講義室ほか
講師：大阪府立大学工業高等専門学校
北野 健一 教授

第1回養成講座は、大阪府立大学高専の北野健一教授を講師として、3日間にわたり集中的に開催しました。事前に学内で募集した参加者(メンティー)の5名が、各々の教育活動を振り返りながらポートフォリオ作成に励んだほか、グループワーク等を通じて、専門分野を超えて交流を深めました。最終発表後には、本学の中村健一学長から修了証が手渡されました。



第2～4回 FDer 養成講座 ～各キャンパスFDerの企画・運営による講座～

第2～4回養成講座は、各キャンパスFDerの企画・運営により実施しました。各学部・学科の実情に合わせたテーマが設定され、アクティブ・ラーニングや学修成果の可視化に関する理論と実践、また、ループリック作成に係る具体的手法について学びました。各回とも、ワークショップを交えた活発な内容となり、多くの発展的な知識・技法を修得することができました。

【第2回】

日時：平成28年12月9日(金)
場所：三原キャンパス1101講義室(主会場)
講師：帝京大学高等教育開発センター長
土持 ゲーリー 法一 教授
テーマ：『ICEモデル アクティブ・ラーニングの効果的なツール』

【第3回】

日時：平成28年12月12日(月)
場所：広島キャンパス1239講義室(主会場)
講師：くらしき作陽大学子ども教育学部
芝崎 良典 准教授
テーマ：『ひとつとひとつをつなげるループリック』

【第4回】

日時：平成28年12月21日(水)
場所：庄原キャンパス大講義室(主会場)
講師：県立広島大学生命環境学部 FDer
原田 浩幸 教授
テーマ：『学修成果の評価について』

(※講師の所属及び役職は開催当時のものです。)



第2回養成講座講師
土持 ゲーリー 法一 教授



第3回養成講座講師
芝崎 良典 准教授

ご挨拶

かど ちゆき 門戸 千幸 先生が着任しました。(総合教育センター教授/新 AP事業推進部会副部長)

本事業は、求められる資質・能力を学生一人一人に身に付けられるよう、知識・技能を使って課題を解決しながら思考・判断・表現し、同時に社会や世界と関わり、人生を豊かなものにしようとする気持ちを育てることを目指して授業改善していくものと捉えます。

授業改善を組織的、継続的な取組とするには、主体的な学びを引き出す教育への質的改革の共通認識と実

行力が何よりも大切です。教員同士が支え合い学び合う仕組を大切に、「学び続ける」教員でありたいと思います。平成26年度から継続・進化している本事業の活動に関わらせていただくことに感謝し、関連する部署、教職員の皆様と連携しながら取り組む所存です。宜しくお願いいたします。

高大接続改革に係る広島県教育委員会との連携事業を実施しました。

広島県教育委員会では、平成26年度に初等・中等教育における新たな教育の方向性を示した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定し、「変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力(学び続ける力)」を育成するための取組が進められています。アクティブ・ラーニングを経験し、能動的な学びの姿勢を身に付けた生徒を大学が受け入れ、「生涯学び続けるアクティブ・ラーナー」として社会へ送り出すためには、高等学校と大学の連携が不可欠です。このため本学は、高大接続改革を推進するため、広島県教育委員会との連携により2つの事業を実施しました。

高大接続改革に係る取組は、29年度以降も継続して実施する予定です。

1 広島県の「学びの変革」に係る説明・意見交換会

日 時：平成28年11月21日(月)
場 所：第1部 説明会 広島キャンパス2313講義室
第2部 意見交換会 広島キャンパス1275講義室
講 師：① 広島県教育委員会 高校教育指導課
吉村 薫 課長
② 広島県教育委員会 学びの変革推進課
山本 浩 主査

(※講師の所属及び役職は開催当時のものです。)



第1部 説明会の様子



第2部 意見交換会の様子

(1) 第1部 説明会

はじめに、広島県教育委員会高校教育指導課の吉村課長から「広島版『学びの変革』アクション・プラン」についての具体的な事例を交えた説明がありました。広島県内の高等学校で行われている先進的な教育実践の事例について、実際の授業動画を交えて説明が行われました。続いて、同学びの変革推進課の山本主査から、広島県の高高等学校における国際化の取組について説明がありました。

(2) 第2部 意見交換会

説明会后、広島県教育委員会担当者と本学教職員による意見交換会を開催しました。本学参加者からは、「学びの変革」アクション・プランや高校での授業実践について多くの意見や質問があり、和やかな雰囲気ながらも活発な意見交換が行われました。

2 平成28年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会(兼 県立広島大学第5回 FDer 養成講座)

日 時：平成29年1月27日(金)
場 所：広島キャンパス大講義室ほか
参加者：学内 教職員及び学生
学外 広島県教育委員会及び高等学校関係者

平成29年1月27日(金)、広島県教育委員会の主催により毎年実施される「広島県高等学校教育研究・実践合同発表会」が、本学広島キャンパスで開催されました。

当行事は、文部科学省や広島県教育委員会等から事業指定を受けた高等学校が、各校の研究・実践についての発表及び相互交流を通じて、教育の充実を図ることを目的として開催されるものです。なお、本学では「平成28年度第5回 FDer 養成講座」と位置づけ、3キャンパスから多数の教職員が参加しました。

(1) 全体会

広島県教育委員会の諸藤孝則教育部長、本学の中村健一学長による開会挨拶に続き、馬本勉学長補佐による本学の事例発表が行われました。発表では、教育改革の取組について、クリッカーを使用したデモンストレーションを交えながら説明しました。



プログラム

9:30~12:00	開会行司・全体会
13:00~16:00	分科会(ポスターセッション)
16:10~16:30	まとめ・閉会行事

続いて行われた、広島県教育委員会による県内高校の授業実践DVD視聴及び議論では、本学教員も参加し、ディスカッションを行いました。

(2) 分科会(ポスターセッション)

午後のポスターセッションでは、本学及び県内の高等学校による、教育研究・実践事例の発表が行われました。セッションⅠでは、本学の11学科及び全学共通教育における組織的な教育実践事例を、参加者である高校関係者に対して紹介しました。続くセッションⅡでは、県内高校による特徴的な教育研究・実践成果の発表が行われました。



最後に、広島県教育委員会高校教育指導課の吉村薫課長、及び本学の西本寮子副学長の挨拶により、閉会しました。

特集

学修支援アドバイザーが活動しています!

県立広島大学では、他学生の学修支援を担う「学修支援アドバイザー」が、所属キャンパスを中心として活動しています。

●●●● 学修支援アドバイザーとは?

県立広島大学では、学修支援アドバイザーに求める学生像を次のとおりとしています。

“授業内外において本学学生への学修支援を行う学生であり、他者の学びを支援すること等を通じて、自身が学ぶ喜びを感じ、生涯学び続けるアクティブ・ラーナーを目指す者”

学生が学生の学びを支援することで、知識の定着を促すとともに、教える側・教わる側がともに学修に対するモチベーションを高め、自律的な学修者となる「学び合い・支え合い」を目的としています。平成28年度は、3キャンパスで計41名の学生が学修支援アドバイザーとして活動しました。

●●●● どのように学修支援アドバイザーを募集・養成しているか?

学生の中から、学部2～4年生及び大学院生を対象に募集します。応募者は、養成講座を受講することで、学修支援アドバイザーとして活動することができます。

●●●● どのような活動をするのか?

大きく2つに分かれています。1つ目は、主として図書館ラーニングコモンズで行う、他学生からの学修相談への対応です。キャンパス毎に活動内容は異なりますが、学修方法や授業の内容について、またレポート作成やPC操作等に関する学生からの相談に、アドバイザーが助言・支援します。また、履修相談や試験対策等の相談会において、希望者へアドバイスをを行います。

2つ目は、教員の求めに応じて行う、授業内外での学修支援です。アドバイザーは、教員から指定があった科目について、授業外学修の支援や、授業の中で行われるアクティブ・ラーニングのサポートを行います。また、要望があった場合には、学生視点から授業改善に資する意見を述べます。

他学生からの学修相談対応

- ①学修方法についての助言
- ②図書館での学修活動に関する支援
・レポート作成、資料作成
・資料の探し方、文献検索
・PC操作
- ③試験相談会等のイベントでの学修支援

授業内外における学修支援

- ①授業外学修の支援
(授業の事前・事後学修)
- ②アクティブ・ラーニングの支援
- ③授業改善に係る教員等との意見交換



全学共通教育「地域の理解」の成果発表会では、ポスターセッションにおいて発表者への意見・助言を行いました。(H29.2.7)

その他、学内で行われる研修やフォーラム等の聴講・運営を通じて、学修支援に求められる知識やスキルの修得に努めます。

アドバイザーの声 ～28年度の活動を振り返って～ (大学院総合学術研究科保健福祉学専攻 2年 三木はるひ)

【活動内容】 主にコミュニケーション障害学科の学生を対象に、大学での授業の受け方・ノートの整理方法・テストの勉強方法・国家試験へ向けた年単位での計画立案方法などの学修支援を実施しました。また、相談業務がない時は、選書や本のレビューといった読書活動推進業務を実施しました。

【成果】 一度相談に来た学生がその友達を連れて再度相談に訪れることを通じて、少しずつではありますが、学修支援アドバイザーの存在が広まったことです。また、相談を受けた学生から、「教員とは異なった視点から助言を受け、非常に役に立った。」「相談してよかった。」という発言が聞かれ、学修に対しても相談開始時よりも前向きな態度が見受けられるようになったことも挙げられます。

【課題】 初回の訪室が教員の勧めによるものばかりで、学生が自ら相談に訪れないことです。また、学修アドバイスをを行った学生に対し継続的なフォローが行いにくく(基本的には学生が相談したいときに相談するという形式のため)、アドバイザーが行った助言が適切であったか、その後どうなったか、アドバイザー自身がフィードバックを受ける機会が少なくなりがちです。

■ 県立広島大学 AP 関連ホームページ

AP事業ページ (QRコードからアクセスできます。)

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/ap/>

ラーニングコモンズ紹介ページ

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/lcs/>



編集後記

今号の編集に際して28年度を振り返ると、大学が多くの新たな試みに着手し、今まさに「変革」の最中にあることを、改めて実感しました。

29年度は事業推進体制がより強化され、今まで以上に挑戦的な取組が展開されていくことと思います。大学が丸となって教育改革に取り組めるよう、事務担当としても一層のサポートに努めてまいります。

(AP事業推進部会ニュース編集担当 伊藤 俊)

■ 本学 AP 事業に関するお問い合わせ先

県立広島大学 AP事業推進部会 (経営企画室内)

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

E-mail: kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp

Tel: 082-251-9727 (直通)、Fax: 082-251-9405

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima